

## FIBER SUBSTANCE

**Patent number:** JP60110977  
**Publication date:** 1985-06-17  
**Inventor:** TAKIMOTO AKIMASA  
**Applicant:** IKEDA BUSSAN CO  
**Classification:**  
- international: C08J5/24; D06M13/22; D06M15/41; D21H1/02;  
D21H1/40  
- european:  
**Application number:** JP19830215769 19831115  
**Priority number(s):** JP19830215769 19831115

**Report a data error here**

Abstract not available for JP60110977

---

Data supplied from the **esp@cenet** database - Worldwide

**Kokai 60-110977**

Title of the Invention: Fiber Material

Publication Date: June 17, 1985

Application No. 58-215769

Filing Date: November 15, 1983

Applicant: Ikeda Corp.

English Counterpart: Does not exist.

JPP'977 discloses a fiber material such as a corrugated paper and a felting, soaked in a mixture comprising a phenol resin and a phenol carboxylic acid. It is described that a phenol carboxylic acid is added to decrease a hardening temperature of the phenol resin. As the phenol resin, a thermosetting synthetic resin obtained by a reaction of a phenol and a formaldehyde is exemplified, and tannic acid is exemplified as the phenol carboxylic acid. There is no description that the mixture is used for improving stain resistance of the fiber material, and a sulphonated phenol- or naphthol-aldehyde condensation is not described as an example of the phenol resin.

⑩ 日本国特許庁 (JP)

⑪ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報 (A)

昭60-110977

⑬ Int. Cl.

識別記号

庁内整理番号

⑭ 公開 昭和60年(1985)6月17日

D 06 M 15/41

6768-4L

D 21 H 13/22

6768-4L

D 21 H 1/40

7921-4L

// C 08 J 5/24

C F B

7224-4F

D 21 H 1/02

7921-4L

審査請求 未請求 発明の数 1 (全2頁)

⑮ 発明の名称 繊維物質

⑯ 特 願 昭58-215769

⑰ 出 願 昭58(1983)11月15日

⑱ 発 明 者 滝 本 章 正 岐阜県不破郡垂井町498

⑲ 出 願 人 池田物産株式会社 横浜市保土ヶ谷区東川島町1番地の3

⑳ 代 理 人 弁理士 宇佐見 忠男

## 明 細 書

## 1. 発明の名称

繊維物質

## 2. 特許請求の範囲

フェノール樹脂とフェノールカルボン酸とを  
主体とする混合物を含浸した繊維物質

## 3. 発明の詳細な説明

本発明は主として自動車天井材、扉蓋材等の成形材に用いられる繊維物質に関するものである。

従来、この種の成形材としてはダンボール、フェルト等の繊維物質にフェノール樹脂を含浸せしめてホットプレスによって成形したものが用いられているが、フェノール樹脂の硬化温度が高く(約180℃)200℃以上の成形温度が必要であり熱エネルギーの浪費、また耐熱性に劣る装材を貼合せて同時成形を行うことが不可能である等の問題点があった。

本発明は上記従来の問題点を解消してフェノール樹脂の硬化温度を下げることを目的とし、フェノール樹脂にフェノールカルボン酸を添加すること

を骨子とする。

上記骨子により本発明においてはフェノール樹脂の硬化温度が低下して成形温度を150℃程度までに止めることが可能となった。

本発明を以下に詳細に説明する。

本発明に用いられる繊維物質とは不織布、フェルト、繊維編織物、カーペット等の繊維加工品、紙、ダンボール等の紙加工品等である。

本発明に用いられるフェノール樹脂とは周知のようにフェノール類とホルムアルデヒドとの反応により得られる熱硬化性合成樹脂であり、水溶性、油溶性、粉末等種々の形態のものが用いられる。

本発明に用いられるフェノールカルボン酸とは安息香酸の水酸基置換誘導体であり、例えばサリチル酸、p-オキシ安息香酸、m-オキシ安息香酸、没食子酸、タンニン等がある。

上記フェノールカルボン酸はフェノール樹脂に対して通常5～15重量%程度の範囲で添加されてフェノール樹脂の性質を変えることなくフェノール樹脂にフェノールカルボン酸を添加すること